

開催日：令和8年4月28日(火)19時～20時50分
場 所：八代市鏡文化センターホール

テーマ：若者・人材の地元定着に向けた取組み ～若者がいきいきと暮らせる八代地域づくりに向けて～

① 基調講演：八代地域の若者の呼び込み・地元定着に向けて

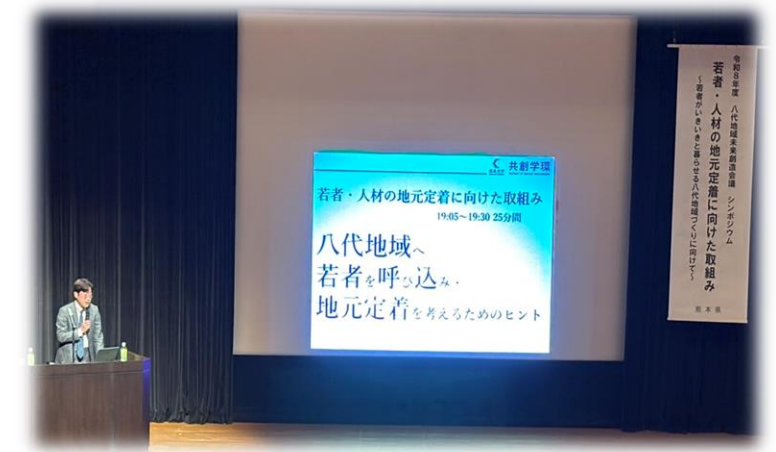
- 八代では進学・就職を機に多くの若者が地元を離れ、特に20～24歳層の流出が大きい。地域外に出ていった若者は貴重な存在。戻りたい、あるいは「関係人口」として外から関わりたいと思える魅力を地域が持てるかが問われている。
- 地域課題に挑む小規模企業の動きは地域づくりの重要な柱となり、地域への愛着やソーシャル・キャピタルを育て人を惹きつける。企業誘致と併せて、地域課題に取り組む企業を育てることが新たな地域活性化の流れとなる。
- 地域課題に向き合う大人たちの姿は若者の意識を変え、「自分も地域に関わりたい」という思いを生む。やつしろ未来創造塾など活躍する挑戦者の姿は高校生にも影響を与え、一度外に出ても地域へ戻る、あるいは外から関わる動きを生み出している。こうした意識変容が地域活性化や地元定着、新たな地方への人の流れを生み出すことにつながる。

基調講演 兼 コーディネーター



金岡 省吾 氏

熊本大学副学長
共創学環長
教授



令和8年度 八代地域未来創造会議 シンポジウム 結果概要

②パネルディスカッション

テーマ1：若者が残り・戻りたくなる地域とは

- 若者定着には働く場の確保と教育改革が不可欠。県営工業団地等のインフラ整備や大学等との連携による人材育成を進め、学びと働きが循環する仕組みをつくることが重要（木村県知事）
- 若者が地域に誇りを持ち、挑戦できる環境が重要。八代市では地域課題解決や起業に挑む若者を支援しており、大人がその挑戦を後押しする姿勢が求められる（小野八代市長）
- 教育・挑戦・働く場がそろい、新しい動きが生まれることが必要。氷川町では農業を基盤に新産業づくりや企業誘致を進め、若者が働ける環境整備を進めている（藤本氷川町長）
- 若者が地元の仕事の魅力を知り、誇りを持って働く大人の姿に触れられることが大切。オシゴト探検フェアなどを通じて企業との接点をつくることで若者が地域に戻る流れを生み出す（濱田氏）
- 自分が必要とされる実感と自然に入れるコミュニティの余白が重要。妙見祭や未来創造塾を通じて役割を託され居場所を感じた経験から、移住者等が地域に関わりやすい導線があること（松井氏）
- 氷川町は行政と住民との距離が近く、挑戦が形になりやすい環境が魅力。働く場が少なくとも起業など努力が報われやすく、自分の取組みを地域に発信しやすいことが強み（北村氏）

テーマ2：若者に選ばれる八代地域づくりに必要なことは

行政と民間パネリスト／クロストーク

- 大企業が安泰などの固定観念を見直す価値観の更新、挑戦者がつながる拠点づくり、行政の伴走支援により、若者が八代で働き挑戦したいと思える環境づくりが重要（松井氏）
- 地元への愛着が強いほど古い価値観に固執しがちだが、違う意見や新しい発想を柔軟に受け入れる姿勢が不可欠であり、それが地域の未来を開く鍵となる（木村県知事）
- 高校生への出前授業など地道な働きかけが若者の入社につながっている。企業が自ら情報を集め魅力を発信し続け、八代で働き・恋愛・定住の好循環を生むことが地域発展の鍵（濱田氏）
- オシゴト探検フェアなどを通じて企業の魅力を見える化することが重要。また、妙見祭や球磨川、歴史など八代の誇れる資源を子どもたちに伝えることも必要。（小野八代市長）
- 移住希望者が1週間ほど滞在し、八代地域の暮らしや人の温かさ、新鮮な農産物等を体験することで、地域の魅力を深く実感してもらう仕組み（北村氏）
- 氷川町は人の温かさや地域ぐるみの子育てが強み。働く場が課題であり、起業に挑戦できるチャレンジショップ整備など、若者の挑戦を支える環境づくりを進めている（藤本氷川町長）

パネリスト



熊本県知事
木村 敬



八代市長
小野 泰輔



氷川町長
藤本 一臣



(株)高野クレーン工業
取締役副社長
濱田 鈴ら



(株)MARUKU
プロダクト事業推進部
事業推進責任者
松井 海香



久般商店
店主
北村 修

